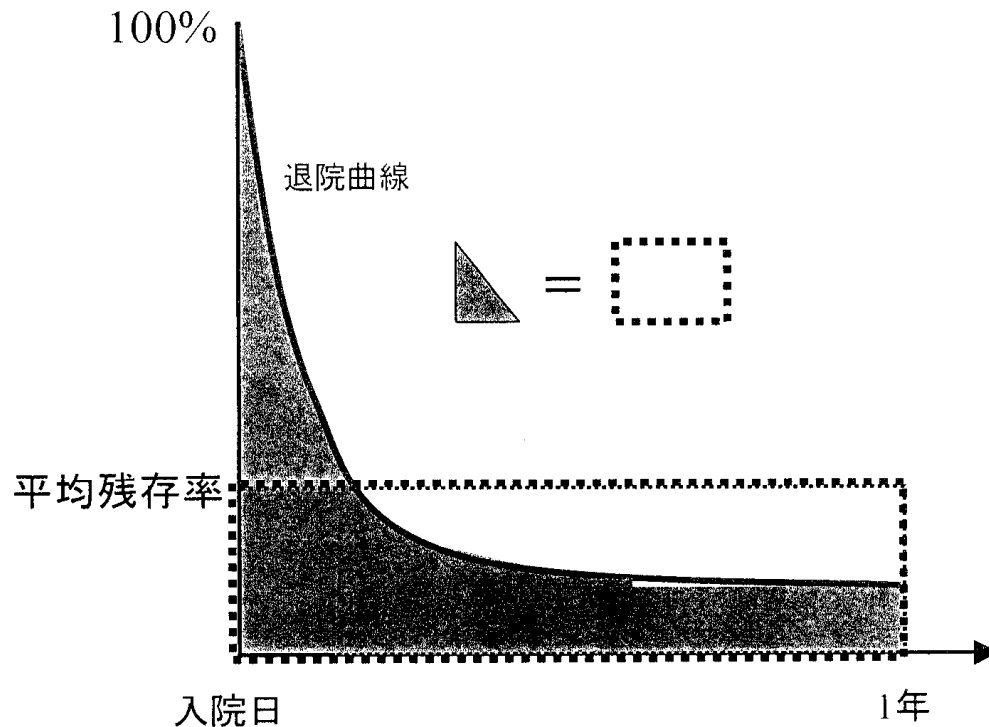


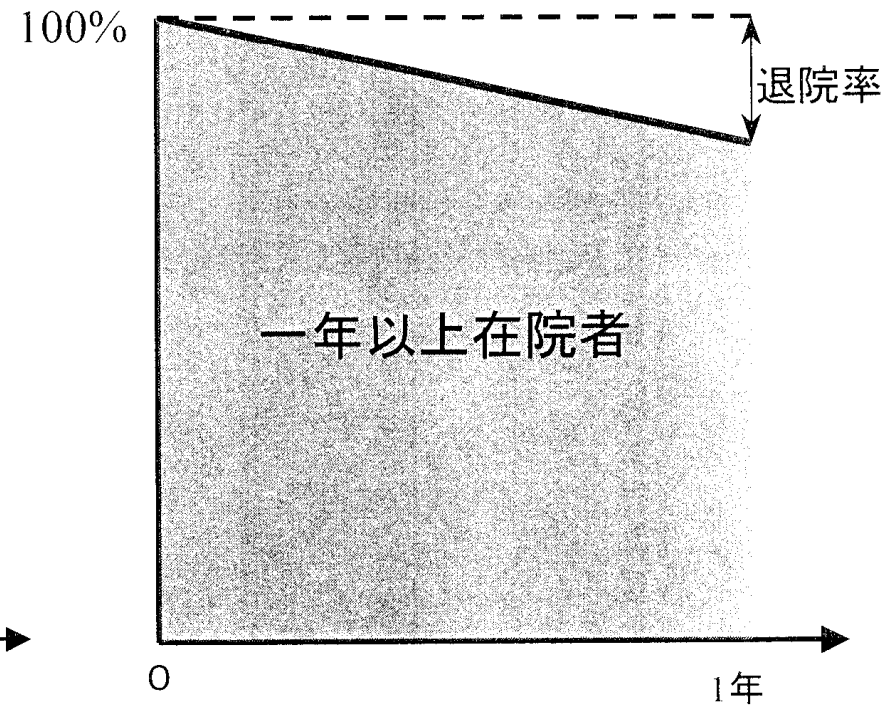
## 平均残存率(一年未満群)



1年以内の退院(残存)曲線が囲む面積と同じとなるよう、各月の残存率を平均したもの。

平均残存率に毎年新規入院患者数を乗じて得た数は、1年以内入院患者にかかる必要病床数となる。

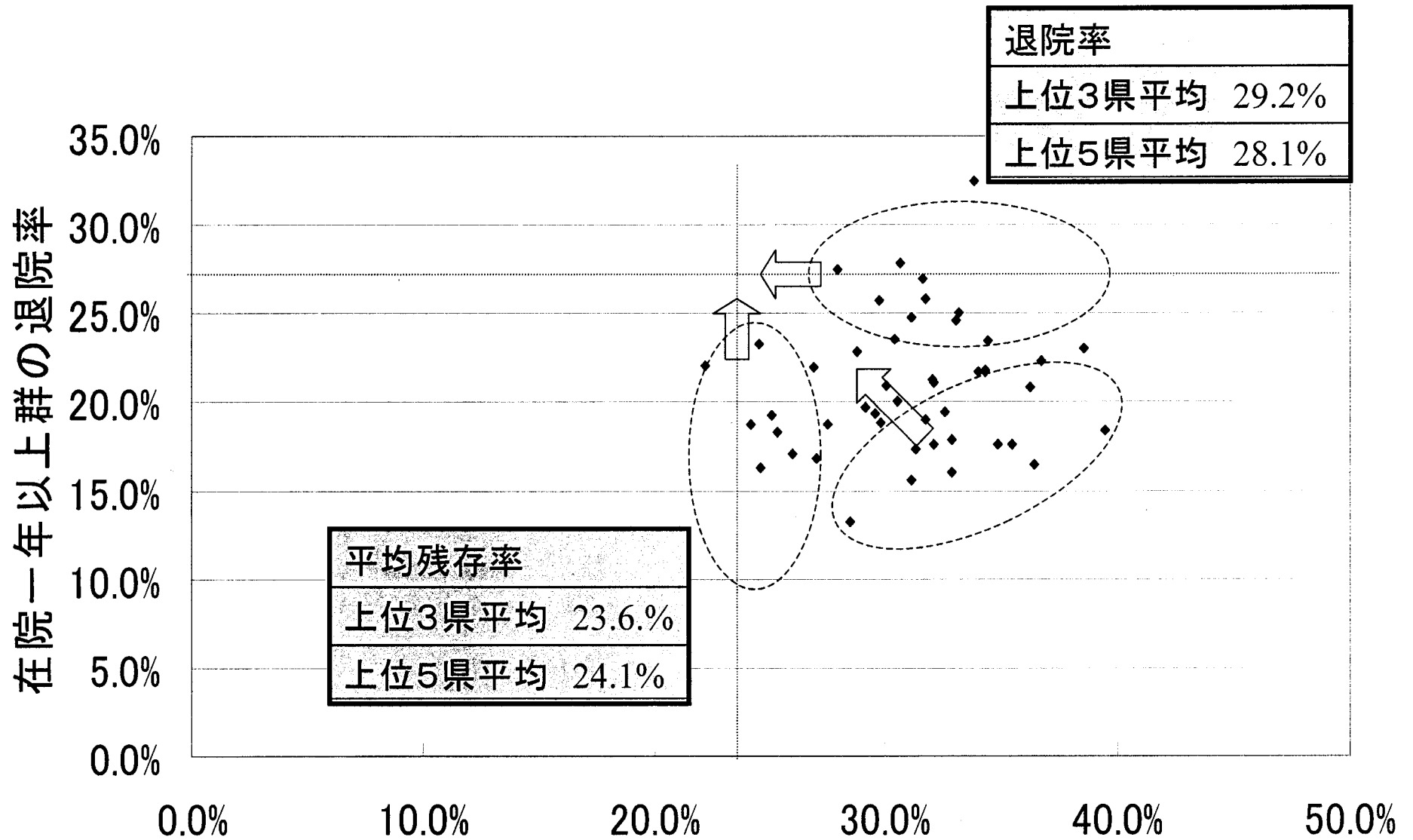
## 退院率(一年以上群)



1年以上の在院患者から退院する者の数を1年以上の在院患者数で除したもの。

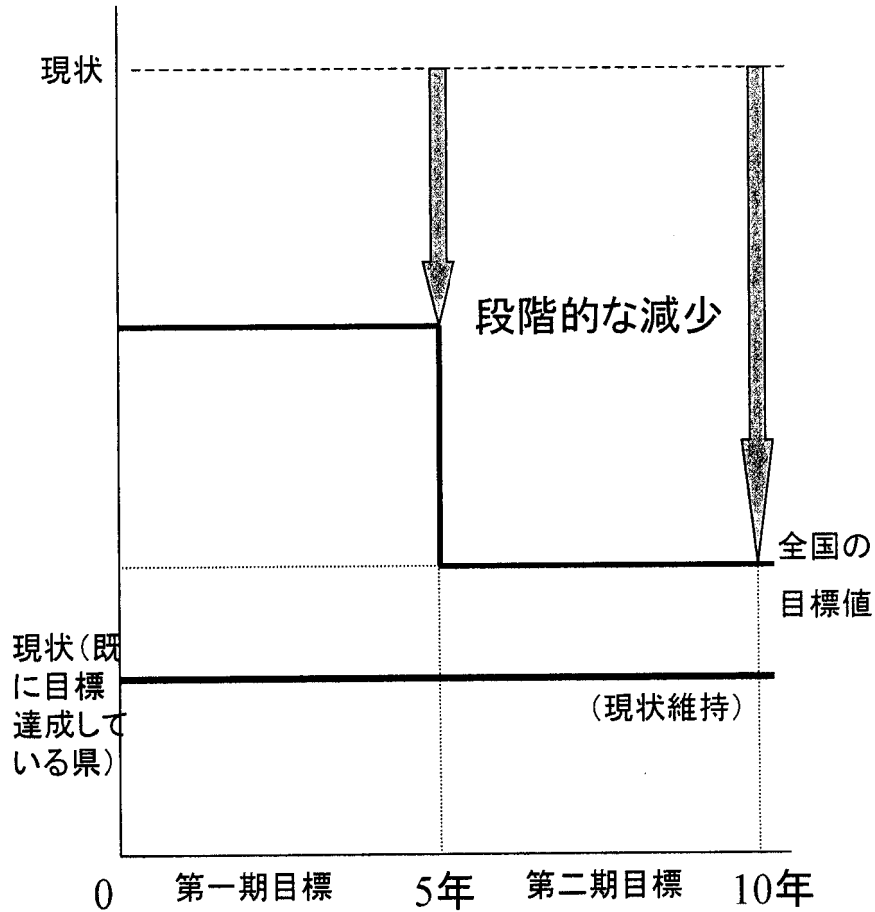
退院率に1年以上の在院患者数を乗じて得た数は、1年以上の在院患者からの毎年の退院数となる。

# 目標設定の考え方

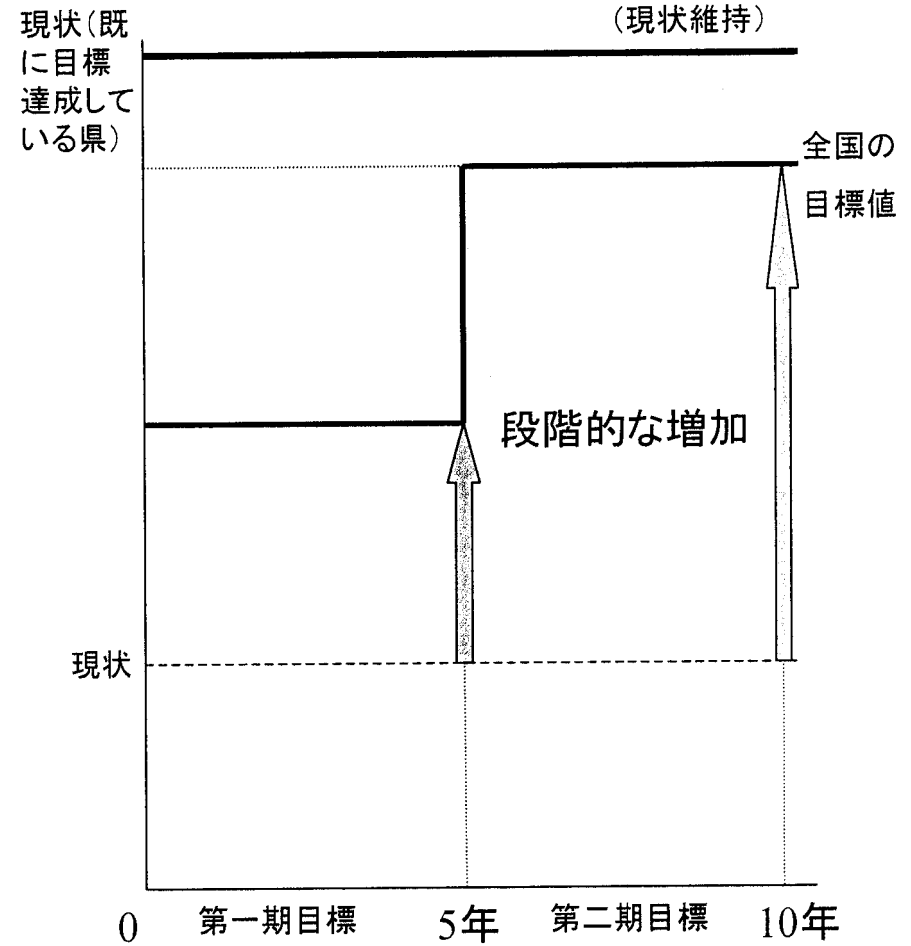


# 段階的な目標設定の考え方(案)

## 平均残存率(在院1年未満群)

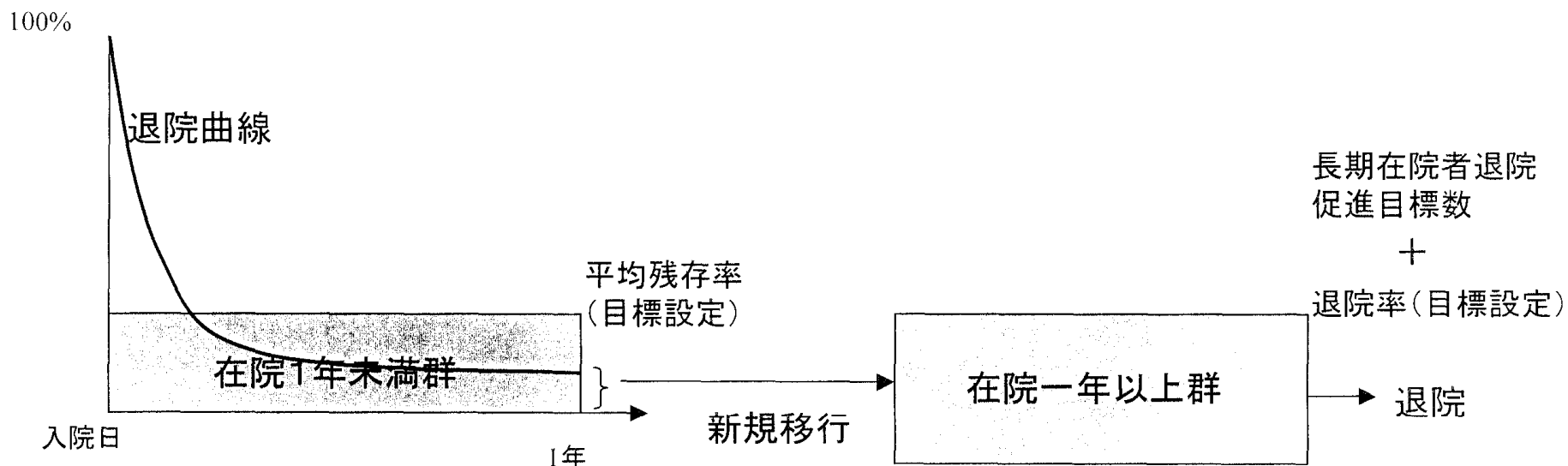


## 退院率(在院1年以上群)



※病床数が多い、退院率が低い等の、都道府県は、これ以上の目標設定

# 新しい算定式の枠組み(案)



平均残存率: 1年以内の退院(残存)曲線が囲む面積と同じとなるよう、各月の残存率を平均したもの。  
平均残存率に毎年の新規入院患者数を乗じて得た数は、1年以内入院患者にかかる必要病床数となる。

退院率 : 1年以上の在院患者から退院する者の数を1年以上の在院患者数で除したもの。  
退院率に1年以上の在院患者数を乗じて得た数は、1年以上の在院患者からの毎年の退院数となる。

長期入院者退院促進目標数 : 病床数が多い、退院率が低い等の、都道府県が、退院率の目標設定に加え、それぞれ設定する目標数。

# 新しい算定式(案)

(計算式)

$$\text{基準病床数} = (\text{一年未満群}) + (\text{一年以上群}) + (\text{加算部分})$$

$$\cdot \text{一年未満群} = (\sum A B + C - D) \times F / E 1$$

※A:各歳別人口(将来推計、4区分)

B:各歳別新規入院率(実績、4区分)

C:流入患者数

D:流出患者数

E1:病床利用率(95%)

F:平均残存率(目標値)

$$\cdot \text{一年以上群} = [\sum G(1-H) + I - J] / E 2$$

※G:各歳別一年以上在院者数(実績、4区分)

H:一年以上在院者各歳別年間退院率(目標値、4区分)

I:新規一年以上在院者数(一年未満群からの計算値)

J:長期入院者退院促進目標数(目標値)

(病床数が多く(対人口)、かつ退院率(一年以上群)が低い地域が設定)

E2:病床利用率(95%)

$$\cdot \text{加算部分} \leq (D / E) / 3$$

※現行通り。居住入院患者数(当該区域に所在する病院の入院患者のうち当該区域に住所を有する者の数)が $\sum A B$ より少ない場合、都道府県知事は上記の計算式で得た数を上限として適当と認める数を加えることができる。

・数値 : 都道府県ごとの数値を用いる。

# 一定の条件の下での試算

## (条件)

- 1 全国を一つの地域として計算(流入等はない、加算はない等)
- 2 退院率、平均残存率は、10年間の中間年で全国目標との差を1/2解消
- 3 都道府県ごとの退院率に係る特別の退院促進目標はゼロ
- 4 新規入院率は、現在の実績
- 5 人口変動は、4区分(20歳未満、40歳未満、65歳未満、65歳以上)で、将来人口推計に基づき変動。
- 6 平成18年からの10年間で計算
- 7 病床利用率は、0.95

## (試算式)

$$\text{基準病床数} = (\text{一年未満群}) + (\text{一年以上群})$$

$$\cdot \text{一年未満群} = (\sum A B) \times F / E 1$$

※A:各歳別人口(4区分)

B:各歳別新規入院率(4区分)

E1:病床利用率

F:平均残存率

$$\cdot \text{一年以上群} = [\sum G(1-H) + I - J] / E 2$$

※G:各歳別一年以上在院者数(4区分)

H:一年以上在院者各歳別年間退院率(4区分)

I:新規一年以上在院者数

J:長期入院者退院促進目標数

E2:病床利用率